

## はじめに

平成14年度から全面実施された学習指導要領は、「ゆとり」の中で児童生徒一人一人に自ら学び自ら考えるなどの「生きる力」を育成することを目指したものです。21世紀は、国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題等の様々な面で社会が大きく変化していくと考えられます。このような時代を生き抜く児童生徒にとって、学ぶことに興味をもち、様々な体験をする中で、未知のものを知る感動を味わったり、自由な発想をもって様々なことを構想しつつ、知的好奇心を高めていく等の科学的なものの見方や考え方など豊かな科学的素養の育成が重要となります。

このような背景の下、本県では、平成13年度から、児童生徒にもっと理科が好きになってもらい、科学的な能力を開花させる支援として、最先端の科学に触れる「科学わくわく体験ロード」や「先端科学おもしろ講座(サイエンスワールド実習)」等の事業を実施し、科学教育の充実を図ってきました。

国際数学・理科教育調査(国際教育到達度評価学会(IEA)実施)によれば、我が国の児童生徒の理科の成績はトップクラスであるが、理科が好きまたは大切と考える児童生徒の割合は、国際的にみて低いレベルにあります。これらの状況を改善するため、文部科学省では、平成15年度から、科学技術・理科教育推進モデル事業「理科大好きスクール事業」を実施しています。

そこで、本県として、平成13年度から実施している事業に加え、平成15年度からは、新たに「理科大好きスクール事業」の指定を受け、観察・実験、野外観察等を積極的に実施し、児童生徒の学ぶ意欲や知的好奇心や探究心をより高め、理科好きな児童生徒を育てるとともに、児童生徒の科学的な見方や考え方の育成を図っております。

各学校におかれましては、それぞれの地域の自然や学校の特色を生かし、自然を愛する豊かな心情をはぐくみ、理科が大好きになる児童生徒を育成するために、本事例集を参考の一つとして指導にご活用いただけたら幸いです。

本事例集の作成に当たって、理科大好きスクールの方々をはじめ、本事業の推進にご協力をいただきました各位に対しまして、感謝の意を表します。

平成16年3月

岐阜県教育委員会  
学校支援課長 藤本 十美夫